

ロジ研「第15回温故創新セミナー」事業報告（概要）



「青淵文庫」の前で

第15回ロジ研 温故創新「青淵 渋沢 栄一 翁」を訪ねて

1. 期 日 平成20年10月17～18日（金・土）晴天
2. 参 加 18名 貸切りバスにて
3. 行 程 17日 午後1時出発 四谷「東ト協会館」→王子飛鳥山公園内「渋沢資料館・青淵文庫・晩香廬」 総称「暖依村荘」という →伊香保温泉「ホテル天坊」泊
18日 深谷市「誠之堂・清風亭」・昼食「割烹 楓」・「渋沢栄一記念館」・「栄一翁 生家・通称 中の家」

【功績】

日本経済の父、翁は1840年（天保11）2月13日、現在の深谷市血洗島の豊農の家に生まれる。階級制度に疑問を持ち討幕運動に拘わるも、一橋慶喜に仕官する。

翁の転機となった欧州視察へ随行し「人間平等主義」「進んだ文明・経済」に感銘を受け、明治元年帰国後、新政府「大蔵省」へ仕えるも、大久保利通らと財政運営で意見が合わず辞職、一般社会で実業界の最高指導者として活躍した。

「論語」の精神を重んじ「道德経済合一説」を唱え、各種産業の育成と多くの近代企業育成と確立に努め、設立に関わった企業は、500余に及ぶ。

〔主な設立団体〕

第一国立銀行（現みずほ銀行）・帝国ホテル・東京証券取引所・東京瓦斯・王子製紙・日本煉瓦・札幌麦酒（サッポロビール）・渋澤倉庫・東京商工会議所

〔社会福祉・国際協力活動〕

慈恵医大・聖路加病院・東京市養育院（56年間院長）・日本結核予防協会

昭和期にはアメリカとの人形による民間国際交流機関「日本国際児童親善会」を組織し、一千体以上の人形交換を行った。

【論語と経済】

終生「道徳経済合一説」を唱え、その真髓には「国を富ますには科学の進歩と商工業の活動によらねばならぬ、それには株式会社が必要だ。経営するには強固な道理によらねばならぬ、道理の基準は論語による他はない。」と説いた。

有子曰く、その人と為りや孝弟にして、上を犯すことを好む者は鮮し。上を犯すことを好まずして、乱を作すことを好む者は、未だこれあらざるなり。君子は本を務む。本を立てて道生ず。孝弟なる者は、それ仁をなすの本か。

【雑記】

日露戦争に勝利し、何の経済力も持たず、唯一大きな産業は「米」生産だけであった我が国に商工業を反映させ、時代が要したとはいえ新生日本の礎を築いたその功績はとてつもなく大であり、大いに反省させられた。

またその生活もあの大正の震災期に飛鳥山の別邸（後に本宅）と、世田谷にも別邸をもち無趣味の中、20人の子宝に恵まれ、最後の子は翁68才時であったと聞いた。

翁のご長男が遊蕩に走った時のお言葉、「お前は国の為に何をした。俺はこれだけ国の為に尽くした」と言ったという。

4 行程及び内容

第1日 10月17日（金）

13:00 東ト総合会館前集合、貸切バスで出発

13:30 飛鳥山公園内「渋沢史料館」（財団担当者案内有り）



渋沢史料館前で
若き日の渋沢栄一パネル（等身大）
と竹内本部長

渋沢栄一[1840(天保11)～1931(昭和6)年]の全生涯にわたる資料を収蔵。隣接する旧渋沢庭園は旧渋沢邸の一部で、大正期の2つの建物(国の「重要文化財」に指定)、「晩香廬」と「青淵文庫」が庭園とともに当時のままの姿で残っています。



「晩香廬」

14:30 出発(貸切バス:車中研修ビデオ放映)→伊香保温泉



車中での挨拶
橋場副会長



竹内本部長

その後、ビデオによる車内研修「信念の経営者 渋沢栄一」45分を放映

- 17:30 伊香保温泉 ホテル「天坊」到着
18:30 夕食・懇親会 ※到着時間により変更になる場合があります。

第2日 10月18日(土)

- 9:30 ホテル出発(バス移動)
11:30 深谷市内(誠之堂、清風亭) (案内有り)



誠之堂



清風亭



清風亭の正面で集合写真

誠之堂は、第一銀行の創始者である渋沢栄一の喜寿を記念して、大正5年、現在の東京都世田谷区に建設され、平成11年に世田谷区から移築。清風亭は、当時の第一銀行頭取・佐々木勇之助氏の古希を記念して、大正15年、誠之堂に隣接して建設・移築された。

12:30 昼食（割烹「楓」）

14:00 深谷市内（渋沢栄一記念館）（解説員有り）



展示室では渋沢氏の晩年の講演会の肉声（レコード）を聴くことも出来ます。※凜とした意志の強そうな声でした。

澁澤栄一翁

本像はもと深谷駅頭にありき

昭和六十三年三月、有志千五百有余名の浄財をもとに駅全区画整理事業の完成と翁の顕彰を記念して建立せしものなり

平成七年十月、翁、生誕八基の地に澁澤栄一記念館の落成に伴い、ここに遷座し奉る

この地や、園日を渉り以て趣を成すの如く大いなる発展をとげしも、刀水は悠遠にして、翁、在世の昔も今の如し、上毛三山の遠望も又、今も昔もなし

翁没して六十五年、翁の像が故山の風物を眺めて起つは又美しき哉

平成八年十一月吉日

深谷市長 福嶋健助



（洪沢栄一生家、中の家）（案内人有り）

生まれた屋敷は明治25年の失火で焼失したが、生家「中の家」の表門が残っており、当時この辺り一帯の領主であった岡部藩の安部撰津の守が、直々に訪ねて来る際、乗馬したまま門をくぐるよう高く作られたという。



「中の家」（栄一の生家）の母屋

17:30 東ト総合会館前到着（解散）

参加メンバー18名（敬称略）

本部長	多摩	竹内政司	竹内運輸工業(株)
二代本部長	江戸川	橋場之廣	柴又運輸(株)
企画委員長	荒川	斉藤彰悟	エスエイロジテム(株)
	千代田	山本伸一	芳和輸送(株)
	中央	下川悟	(株)プライム物流
企画担当	新宿	飯島光幸	(有)トーワ・デリバリー
	中野	緋田政人	緋田運輸(株)
	台東	松本有司	金方堂運輸(株)
	深川	奥井理之	坂口運輸(株)
	城東	鈴木健之	鈴木商事(株)
	葛飾	鈴木貢	(有)すずか梱包運輸
	荒川	湯田啓一	日東通運(株)
	足立	相楽俊一郎	大徳運輸(株)
	足立	山田正信	(株)森田商運
	足立	藤倉泰徳	(株)藤倉運輸
	多摩	飯沢宗光	成光運輸(株)
	多摩	宮本隆	宮本運送(株)
東ト協事務局	本部	齋藤康	(社)東京都トラック協会